



優勝チーム アストロズ



アストロズ、またまたオリンピック年で優勝！2012年(ロンドン)、2016年(リオ)、2022年(北京)に続いてやはり2024年(パリ)もオリンピック年で優勝が出来ました。これで通算7回目(秋季大会を含めて)の優勝です。

初戦は、久々のChiyoda Arrowheads、皆の心と頭の中はここは順当に勝ち上がっての次戦の昨年準優勝のIZAKAYA WAチームとの対戦のことばかり。ところが蓋を開けてみると初回からクリーンヒットの連続であつという間に5失点。終わって見たら千代田チームとの初戦が一番きつたのではないかと思います。その裏も1番、2番と凡退で早くもツーアウト、ヒヤッとなりましたが、やってくれました。俊樹がホームランの後、シェーン、瑞葵(子供)、牛嶋の3連打でこの回3点を返し、ムードは一転、この試合の勝利を早くも確信致しました。その後もシェーンと近藤のホームランを含むコンスタントな安打の連続で毎回得点、5回表には4点を返されましたが、何とか13対9で逃げ切りました。



2戦目は大きな壁と目されたIZAKAYA WAチーム。初回の相手の攻撃を0点で抑えられたのが大きかったと思います。1番宮城のフォーボールでの出塁をきっかけに後続のコンスタントなヒットでなんといきなり予想外の6得点。それでも油断出来る相手ではないので気を引き締めて2回表も0点で抑えたら、その裏にアロンのホームランを含む6連続安打でなんとこの回も6得点、ここで試合の行方はほぼ決まりましたね。その後も代打岡田のホームランを含め追加2得点、結局14対5で試合を終えました。ほっと一息。

いよいよ準々決勝。本番前の練習試合で初回からホームランを打たれて6失点を喫した強豪三井チーム。今回1度だけの先攻試合で初回2点を取るもすぐに2点を返され同点。何とか2回に1点、3回に2点を加えましたが、その後は両チームの好守備の連続で加点出来ず、結局前半のスコ

アの5対2で終了。先攻でしたので最後まで気を許せない試合でした。

何とかベスト4に残れましたので準決勝のコムツとの試合は最後まで自分が投げさせてもらいました。こども1回裏に宮城のフォーボールに続く連続3安打を含む攻撃で5得点、5対0からのスタートは精神的に大分楽に試合を進めることが出来ました。3回には、瑞葵(子供)、牛嶋、アロン、上田の4連打で4点、4回には、宮城、近藤、俊樹、シェーン、瑞葵の5連打で2点を加点、結局13対4で試合を終えることが出来ました。

決勝は、年々実力を上げてきているストームズが相手。今年の優勝最有力候補だったのではないのでしょうか？やはり準決勝でその力を遺憾なく発揮して昨年優勝チームの住友ダッシュチームを破って決勝に上がってきました。

案の定初回2点を取られリードされ、逆に打線が沈み込んだ上に相手の好守に得点を阻まれ、4回表まで2対0でビハインド。それでもこちらも安定した守備で相手に加点を許さず、4回裏にやっと1点を返し、2対1、これで何かきっかけのようなものを感じました。5回の相手の攻撃を0に抑え、その裏に2点を返し、3対2で逆転。ところが6回表にそれまで堅かった守備陣の乱れも含み、2失点、4対3と再逆転を喫しました。しかしその裏やっとなり前の打撃力を示し、宮城、近藤、俊樹、シェーンの4連打で3得点、6対4と再逆転に成功。あとは7回表を一人一人丁寧に打ち取り、そのまま逃げ切りました。

来年はオリンピックがありませんのでアストロズは多分休憩して、ストームズと千代田チームの優勝争いを見学することになるのでしょうか？過去優勝の翌年は必ずぼろ負けをしているチームなので来年は2年連続優勝へ挑戦はしますが、とりあえず初戦の勝利を目標に頑張りたいと思います。

最後は私事になりますが今年は年初から数ヶ月の寝たきり老人の生活を強いられ、手術後も全力疾走、筋トレなどを禁じられていたので、今年の大会に出られることなど夢のような話でした。それなのに何と優勝させてもらえて感無量です。チームの垣根を越え、沢山の方から励ましのお言葉を頂いたこと、またご心配をお掛け致しまして、この場を借りてお礼を申し上げます。

来年はFull Powerで復活したいと思いますので今後ともよろしく願い申し上げます。

(監督 佐藤文昭)

